聴覚インプラント・補聴器先端医療センターを新設

耳鼻咽喉科のチーム

医学部附属病院は11月、耳鼻咽喉科内に「聴覚インプラント・補聴器先端医療センター」を新設しました。

加齢性難聴の増加に伴い拡大が見込まれる補聴器・人工聴覚器医療に対し、適応評価～手術～術後リハビリテーション／補聴器フィッティングを一気通貫で提供し、県内外の医療機関と連携して質の高い医療を提供します。

耳鼻咽喉科の診療実績・教育基盤を活かしたセンター運営とし、地域の難聴診療の底上げに貢献します。

「人工聴覚器（または聴覚インプラント）」とは、聞こえを助ける体内埋め込み型の医療機器の総称です。主に以下の３種類があります。①人工内耳（聴神経を直接刺激）、②人工中耳（耳の奥を振動させて伝える）、③骨導インプラント（骨の振動で内耳に届ける）

病院ゆるキャラ総選挙　「ぐんま のうしん君」が３位

医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター（ぐんまのうしん）の公式キャラクター「ぐんま のうしん君」（画像）が11月16日大阪で開催された、病院ゆるキャラ総選挙2025（病院マーケティングサミットJAPAN主催）で全国３位に入賞しました。

「ぐんま のうしん君」は、群馬県のかたちをした、一度見たら忘れられないシュールなシルエット。でも、明るく、純粋で、誰よりも県民のみなさまの健康を願う生き物です。

ぐんまのうしん君からのメッセージ……「決勝の舞台はとても緊張したけれど、これまで一緒に学んだ日々を思い出して最後まで頑張れました。この結果はゴールではなく、〝健康〟を一緒に考える旅の途中です。本当にありがとう！」

昭和町から昭和基地へ
生体調節研究所の杉浦健太研究員　南極観測隊に参加決定

生体調節研究所・細胞構造分野（代表：佐藤健教授）の杉浦健太研究員（写真）が、南極地域の生物相と生態調査のため、第67次南極地域観測隊に隊員として参加することが決定しました。

杉浦研究員は、観測課題「凍結・乾燥の影響を受ける南極露岩湿地の生態系観測－環境特性・生物群集・生物量の解明を目指して－」の遂行のため、2025年12月から2026年２月までの日程で調査を行います。特に、乾燥や凍結などといった環境変動の大きい南極大陸の湿地帯や露岩域に着目します。これらの環境にはすでに、ワムシ・線虫・クマムシといった微小な無脊椎動物が生息していることが知られており、その生態や生物相の変動、環境適応性を明らかにすることを目指します。

杉浦健太研究員のコメント……これまで線虫やクマムシの研究をとおして培ってきた行動力と知識を総動員して、キャッチーでウィットでセンセーショナルな研究ができるよう、頑張ってきます。

■ お問合せ先
研究・産学連携推進機構
産学連携ワンストップサービスオフィス
TEL：0277－30－1105
（受付時間　9：00～16：00）
E-mail：onestop@ml.gunma-u.ac.jp

水源 SUIGEN Vol.11

発　　行	群馬大学研究・産学連携推進機構
制　　作	研究・産学連携推進機構、研究推進部
企画・編集	登坂和洋
連　　携	昭和地区事務部総務課　広報・保健学庶務係
印　　刷	上武印刷株式会社
発 行 日	2026年１月１日

Copyright　©2026
Organization to Promote Research and University-industry Collaboration,Gunma University Printed in Japan
本書の収録内容の無断転載、複写、引用等を禁じます。